

河北新報に  
掲載された記事

本塾では「合気道を通して世の中に貢献を！」の実践として、毎年五月〜十二月の毎月一回、全八回の教室を開いています。

# 合気道通し 交流広げる

仙 台

## 神武錬成塾 障害者に指導

わたしたち「合気道神武錬成塾」は、仙台市内の知的障害者の皆さんに合気道を教えています。「仙台市知的障害者関係団体連絡協議会」という団体が、料理、音楽、

左記の記事は「河北新報」に六月に掲載されたものです。記事の中にもありますが、今年を受講生は十四名です。稽古はマンツーマンかそれ

に近い方法で行われますから、塾生の献身的な協力がなければ成り立ちません。ご協力いただく塾生にただただ感謝申し上げます。

知的障害者と楽しく合気道のけいこに取り組んだ



と指導者を含めて総勢26人でけいこしました。受講生たちは道場に着くと、塾生に「元気だった？」「けいこが楽しかったです。」などと話し掛けます。徐々に道衣を着ることで気持ちが高ぶっている人、

掛けられると本当につれしいです。けいこは体さばき、受け身、技と進めていきます。受け身や技がなかなかうまくできず弱音を吐く人や、怖くなって隅に行ってしまう人もいました。「できる範囲でいいから少しづつやってみて」と激励しながら続け、なんとか形になったときは「できた」と言って喜びの表情を浮かべていました。

継続して教室に参加している人の中には、とても上手に技をかける人もいて驚かされます。途中少し休憩もして、1時間半のけいこでした。次回は6月27日。体に気を付けて元気にけいこに来てほしいものです。(仙台市・白川 竜次)

相撲取りの稽古は「3年後の稽古をしろ」と言われているそうです。今一所懸命稽古してもすぐに強くなるわけではありません。すぐには強くなりませんが、将来目を出す可能性があるとこのことです。反対に今、そこそこの実力がある者が、今の稽古をサボってもすぐに負けることもないし、地位も下がりにません。しかし、稽古嫌いの人は知らず知らずのうちに番付が下がっていきます。

気がついたときには手遅れの状態になり、そのようにして非常にいい素質を持ち将来を嘱望されていた人がいつの間にか消えていったという角界の話があります。稽古を積んであるレベルに到達したから、もう苦しい稽古はいらないというわけではありません。いやそれよりも今の地位を確保するために必要なのもつと厳しい稽古が必要なのです。毎日毎日の地道な稽古が非常に大切なのです。黙っていても、他人が強くてくれるわけでもなく、お金を積んで出世したり自分を誤魔化して地位(番付)が上がっていくことはありませぬ。今の自分の努力が何年後の自分を造ってくれるのです。歌舞伎の市川團十郎さんがこんなことを言っているそうです。「一日稽古を怠ったら、自分が下手になったと思う。二日稽古を怠ったら、相手役が『団十郎ちよっとおかしいな？ 下手になったな』と思う。三日稽古を怠ったら、最良筋が『団十郎おかしいぞ。下手になった』と言う。そのレッテルを貼りがえることは、並大抵のことではない」。三日稽古を怠っただけで役者は駄目になっていく。「大根役者」というのは、下手な役者を言うのではなく、「下手になったこと」に気づかない、驕った役者」を指すのだそうです。毎日同じことを繰り返しながら、常に自分を成長させていく。そして、それは一日も休んではならない。一日一日の積み重ねが「日々初心」だと言うのです。合気道の世界も、人生も全く同じであることに気づかされます。毎日毎日同じことの繰り返し、同じ稽古、同じ仕事の連続です。その中にこそ自分を高めてくれるものがあるのだと言うことです。こころしたいものです。塾長

河北新報に  
掲載された記事

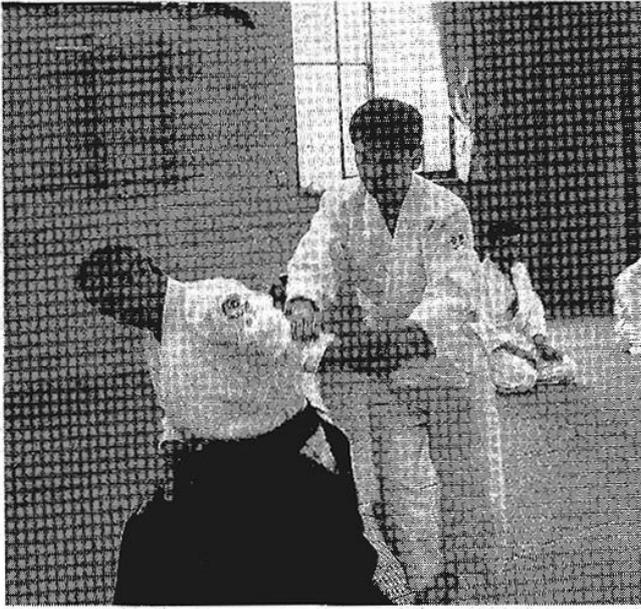
障害者と一緒稽古に汗

神武錬成塾 合気道教室で交流  
仙台南道場

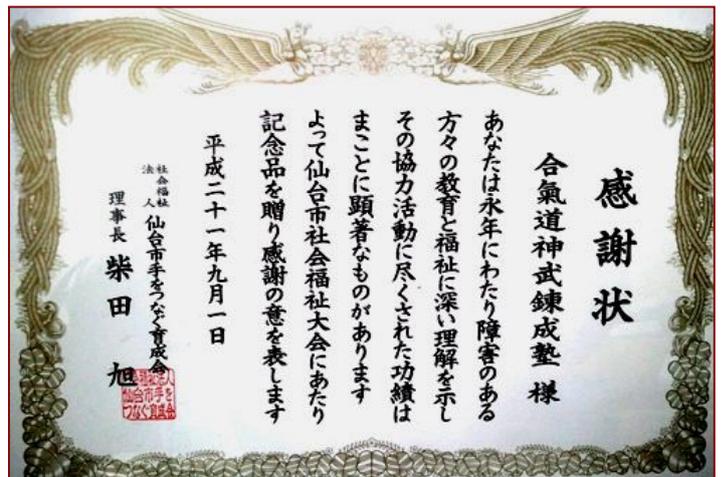
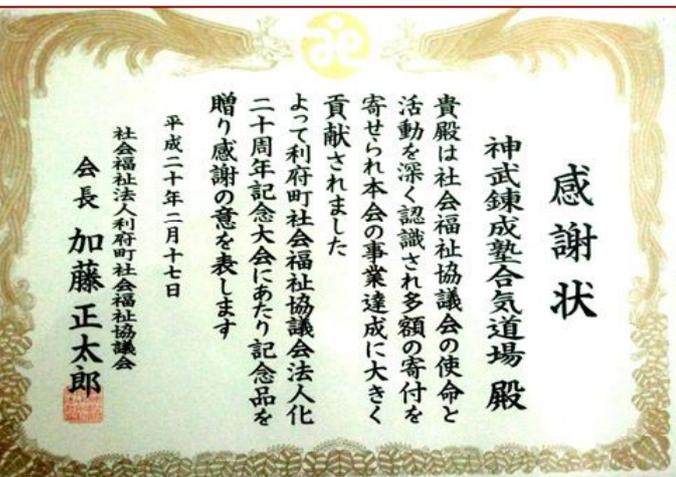
仙台市知的障害者関係団体連 回転する前受け身はなかなかう  
絡協議会という団体がありま まくいきませんが、中には上手  
す。そこでは料理、音楽、粘土 にできる人もいます。  
細工、パンやお菓子の手作りな 技の稽古は、慣れている塾生  
ど、知的障害のある皆さんを対 と教室の皆さんで組み、一対一  
象に、いろいろなレクリエーシ で行いました。途中、何回か休  
ョン教室を開いています。その 憩を挟みながら、約1時間30分  
一つに合気道教室があり、私た の稽古でした。  
ち合気道神武錬成塾がお手伝い 終わった途端、皆さんが「次  
しています。 は〇日だよね」「また△△さん  
(仙台市・白川 竜次)

「合気道を通して世の中に貢 献を」という白川勝敏塾長の  
モットーの実践として協力する ようになって今年で6年目。そ  
の第1回の教室が5月13日、神 武錬成塾の仙台南道場(太白区  
郡山)で開かれました。  
昨年から継続の人を中心に9 人が参加。お手伝いの塾生も9  
人で、全部で18人の稽古(けい こ)になりました。  
教室の皆さんはこの日を楽し みにしていたようで、開口一番  
「会いたかった」「早く合気道 がしたい」「待っていたよ」な  
どの声が上がりました。本当に うれしい限りです。

稽古は準備体操に始まり、前 受け身、後ろ受け身をしました。



白川勝敏塾長(左)に技を掛ける合気道教室の稽古生



この教室は塾長一人では出来ません。マンツーマンの指導のため、多くの塾生の方のご協力で成り立っているものです。そして、その塾生のご協力に対してわずかですが交通費が出ております。それを塾生の方のご理解を得て積み立て、毎年本部のある利府町の社会福祉協議会に寄付をしておりました。本年「利府町社会福祉協議会法人化20周年記念大会」において社会福祉のための金品寄付の項目で「多額の善意団体」ということで「合気道神武錬成塾」が感謝状をいただきましたのでご報告させていただきます。また21年には仙台市手をつなぐ育成会からも長年の活動の功績をみとめられ感謝状を頂きました。